

令和8年3月 急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランス

宇都宮市のARIサーベイランスについて

本市では、市内12か所の定点医療機関からARIと診断された患者の数を毎週、御報告いただいています。これによって、宇都宮市におけるARIの流行状況を把握することができます。

また、患者数の報告を行う定点医療機関の中で、病原体分離のために検体採取を行う医療機関（病原体定点）が、市内に2か所定められており、採取した検体は宇都宮市衛生環境試験所にて、以下の呼吸器ウイルスの遺伝子検査を行っています。

検査対象病原体：インフルエンザウイルスA/B、新型コロナウイルス、
RSウイルスA/B、ヒトパラインフルエンザウイルス1～4、
ヒトメタニューモウイルス、
ライノウイルス/エンテロウイルス、
アデノウイルス

患者発生状況

【定点当たり報告数（図1）】

- ・ 宇都宮市における2月期最終週（第9週）の定点あたり報告数は83.17例（報告数998例）で、第8週の110.92例（報告数1,331例）から減少しました。
- ・ 栃木県（宇都宮市を含む）では第9週89.57例（前週123.96例）、全国平均は64.96例（前週86.46例）であり、第8週と比べていずれも減少しました。

【患者の年齢構成（図2）】

- ・ 2月期の最終週（第9週）の年齢別割合は、1-4歳が30.5%、5-9歳が27.6%、10-14歳が12.8%、0歳が3.6%で、15歳未満が患者全体の約70%を占めました。

図1：定点当たり報告数の推移

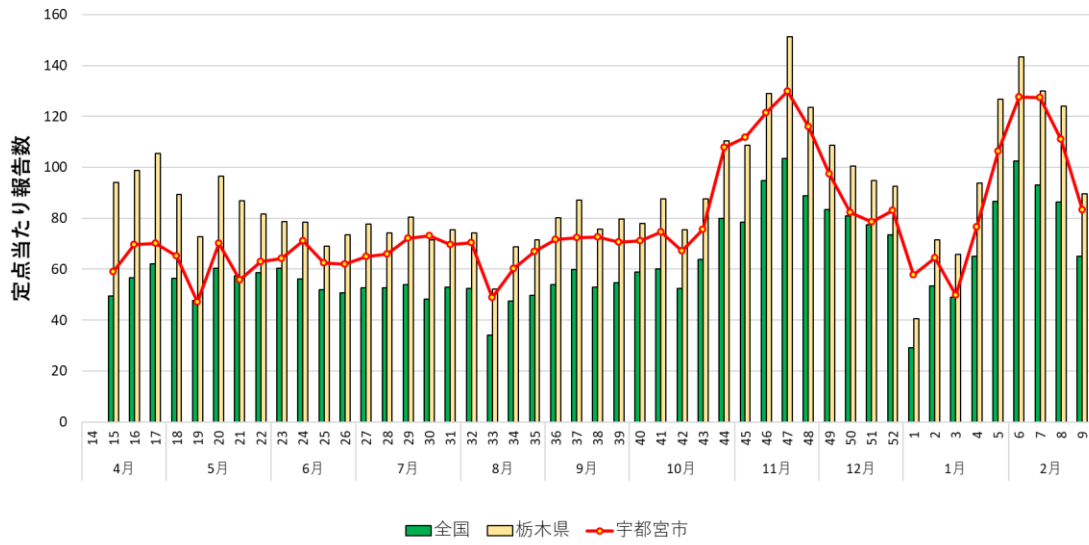
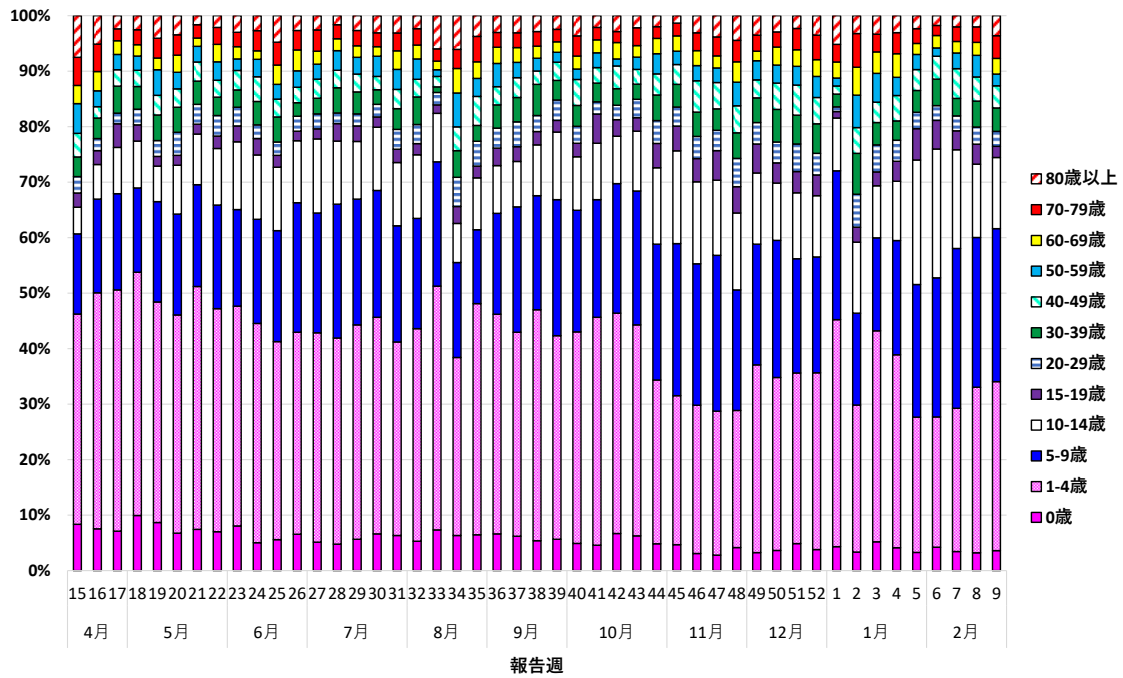


図2：患者の年齢階級別割合の推移



病原体検出状況

【病原体検出状況】

2月期（第6～9週）に採取された40検体のうち、34検体から何らかの病原体が検出され、陽性率は85.0%でした。2月期に多く検出された病原体は、インフルエンザウイルスB（29件）であり、次いで新型コロナウイルス（6件）、ヒトパラインフルエンザウイルス（5件）、ライノ／エンテロウイルス（4件）でした（表1）。

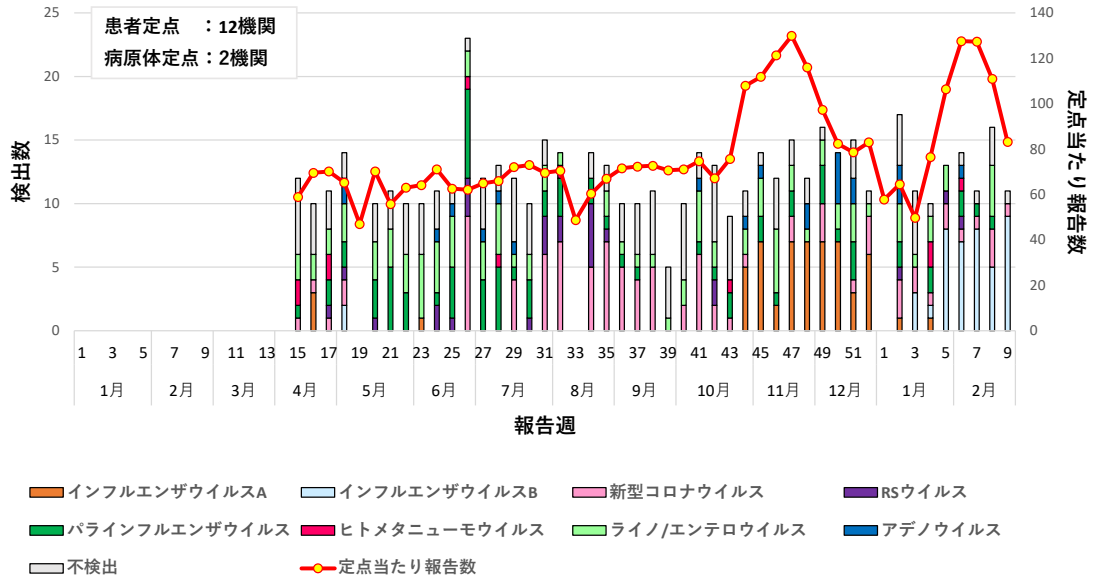
特に、第9週ではインフルエンザウイルスBが9件と最も多く検出されており、1月期から継続して多く検出されています（図3）。

1月期と比較すると、インフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）が2倍以上に増加しました。その他、新型コロナウイルス、ヒトパラインフルエンザウイルス、ライノ／エンテロウイルス等が、引き続き検出されています。

表1：病原体検出状況（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	15-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	1-5週	6-9週
検体数	31	40	40	50	30	35	49	40	40	40	40
不検出数	13	12	9	17	4	16	21	9	5	10	6
陽性率	58.1%	70.0%	77.5%	66.0%	86.7%	54.3%	57.1%	77.5%	87.5%	75.0%	85.0%
インフルエンザウイルスA	3	0	1	0	0	0	5	23	23	2	0
A/H1pdm09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A/H3	3	0	0	0	0	0	5	20	18	1	0
A亜型不明	0	0	1	0	0	0	0	3	5	1	0
インフルエンザウイルスB	0	2	0	0	0	0	0	0	0	12	29
B/ビクトリア系統	0	2	0	0	0	0	0	0	0	11	29
B系統不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
新型コロナウイルス	3	2	9	10	19	14	12	2	7	8	6
RSウイルス	1	2	6	4	8	0	2	0	0	2	1
A型	1	1	5	1	2	0	0	0	0	0	0
B型	0	1	1	3	6	0	2	0	0	2	1
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	13	14	16	6	2	4	7	8	4	5
1型	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0
2型	0	0	1	4	1	1	0	3	3	0	3
3型	2	12	8	3	1	0	3	2	2	0	0
4型	0	1	5	9	3	0	1	2	3	3	2
ヒトメタニューモウイルス	4	0	1	1	1	0	1	0	0	2	1
ライノ／エンテロウイルス	6	12	15	12	3	4	10	11	8	8	4
アデノウイルス	0	2	2	3	0	0	2	3	6	3	1
検出数合計（同一検体からの複数検出含む）	20	33	48	46	37	20	36	46	52	41	47

図3：病原体検出状況（週別）

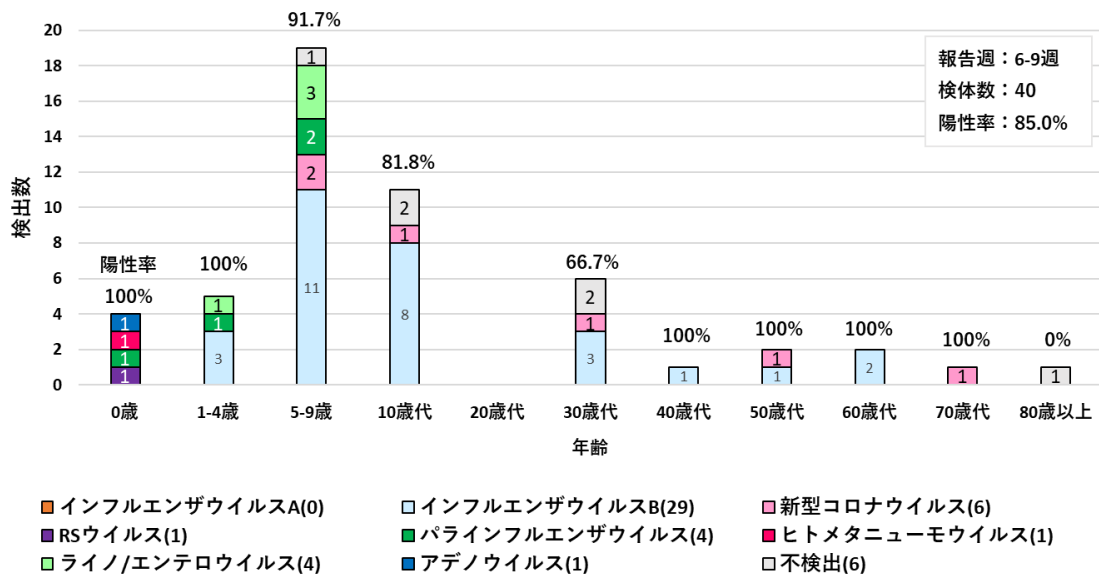


【年齢別病原体検出状況】

2月期（第6～9週）に採取された検体の年齢別内訳では、5～9歳が最も多く、次いで10歳代、30歳代の順でした。

1月期は10歳代以下を中心にインフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）が多く検出されていましたが、2月期は5-9歳を中心に幅広い年代でインフルエンザウイルスB（ビクトリア系統）が検出されています（図4）。

図4：年齢別ARI病原体検出状況（2月期）



() 内は全年齢の検出数

※ 1つの検体から複数の病原体が検出される場合もあります